



～MESSAGE FROM THE PRINCIPAL'S OFFICE～

校長室だより

河内長野市立高向小学校

11月号

令和5年10月31日

気候もすっかり秋らしくなりました。先月末はインフルエンザ等発熱による学級閉鎖が続きました。子どもたちには、病気になっても回復へ向かう体力・抵抗力が備わるように、普段の規則正しい生活と食事・睡眠と、体調が悪い時には無理をしないことが大切だと話しています。

ご家庭でも、普段以上に健康管理に心を配っていただいていることと思います。日々の忙しさに、大人もつい自分のことを後回しにしがちですが、家族みんなが元気であってこそ、子どもも安心して落ち着いて学校で過ごすことができます。例年に比べ暖かな秋と言われているので、秋を楽しみ、心も体もほっとする時間を作って健康に過ごしたいものです。



11月は体力づくり。「リズムなわとび」なども始まります。

運動会へのご参加・ご声援ありがとうございました。

今年の運動会は、当日の朝5時台まで降り続いた雨のため開会の時刻を繰り下げましたが、ほぼ予定通り開催することができました。PTA役員・専門委員・学級委員のみなさまをはじめ、当日早朝から「何かお手伝いしますよ」と来てくださった保護者・学校運営協議会のみなさま、ご協力をいただき本当にありがとうございました。

開会式は運動場のコンディション回復のため、各代表のみの行進とさせていただきます。急な変更でしたが、日頃の練習から自分の役割をよく理解していて、応援団をはじめ、子どもたちの姿に頼もしさを感じる一幕でした。



また本年度より、高学年の「^く組^{たい}体」は「組体」となりました。組体の良さを引き継ぎ、「仲間・5年生と息を合わせ」「集中して」「最高の演技」に向けてコツコツと取り組んできた成果を、続く学年がしっかりと目に焼き付けてくれたことと思います。



低・中・高学年の団体演技は、それぞれの持ち味を生かして、全身で表現しました。

「練習」が教えてくれたこと —「やればできる」の心と力—

練習すること、繰り返し粘り強く取り組むことを苦手だと感じている子どもたちはたくさんいます。少し見ただけで「できない」「分からない」と決めてしまったり、「失敗するから」「ハズイ(恥ずかしい)」と初めからやろうとしなかったり、取りかかるまでには少し時間がかかります。普段学校で新しいことを教えるときにはステップを踏んで、やや複雑なものは言葉だけでなくイラストや動画を使い取り組みやすくしています。

さて運動会の練習では、イラストなど無くとも見て学べる機会がたくさんありました。子ども同士で教え合えることも多いので、練習の中でも自由度が高く、一度やってみれば「できそう」と感じられる楽しいものが多いのが特徴です。

楽しい練習とはいえ、できなかったことができるようになるまでには、その人にしか分からない苦労があります。何度も失敗しながら、それでも努力して「できるようになる」ので、途中で「本当にできるようになるのかな」と不安になったりもします。そんな不安を仲間同士励まし合って乗り越えた時には、仲間の絆とともに大きな達成感と自信が得られます。まさに、「やればできる」。次につながる心持ちとエネルギーです。

組体後の子どもたちの涙には、そうした良い積み重ねがあったのだらうと思います。この11月にも学年それぞれに行事がありますので、チャンスとして挑戦し、悔し涙も嬉し涙も流せるくらい一所懸命に取り組んでほしいと願っています。



堂々とした演技を完成させるまでには、見えないところでさまざまな努力があります。見ている人にも伝わり、感動の拍手となりました。

【 11月の 国民の祝日 】～政府広報オンライン「知ってそうで知らない「国民の祝日」とその趣旨や経緯」より～
11月 3日：文化の日。「自由と平和を愛し、文化をすすめる。」昭和21年に日本国憲法が公布された日で、憲法において戦争放棄という重大な宣言をし、国際的にも文化的意義を持つ重要な日です。
11月23日：勤労感謝の日。昔は「新嘗祭」として新穀に感謝する日でした。祝日制定時の資料には「国民が毎日生活を続けていられるのは、お互いがお互いを助け合っているからである。従って、ここにいう感謝というのは、すべての人がすべての生産とすべての働きとに感謝し合うのでなければならない。」とあります。